

手賀沼水生植物船上調査—マコモ、ヒメガマの分布状況—

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 顧問 小倉 久子

1. 目的

県による外来水草駆除作業後の再繁茂等の状況確認と、在来抽水植物の分布状況を確認するため、船上からの目視調査を行った。

2. 日時

日時：2023年12月20日（水）9:00～12:00

調査エリア：手賀沼全域

調査項目：ナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）、オオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）
マコモ、ヒメガマ、ヨシ等

使用船舶：みずすまし号 古川船長

参加：千葉県立中央博物館 林紀男さん、農研機構 嶺田拓也さん、美手連 7名

3. スケジュール

8:45 集合 手賀沼親水広場 第2駐車場

9:00 乗船（我孫子手賀沼漁協棧橋）出航

⇒手賀大橋⇒手賀沼西側周回 ⇒我孫子手賀沼漁協棧橋⇒東側周回

⇒フィッシングセンター棧橋 ⇒

11:50 下船（我孫子手賀沼漁協棧橋）

4. 調査地点図



5. 結果

(1) 若松植生帯

植生帯と湖岸の水路はナガエ・オオバナの混合群落で閉塞し、植生帯縁辺部のヨシ・マコモの根元にはナガエ・オオバナが絡まっていた。

(2) 手賀沼公園地先

県の「湖沼における外来水生植物防除事業」の補助金で市民団体によって行われた防除活動により、ナガエ・オオバナの群落はほぼなくなっていた。



(1) 若松植生帯

(3) 根戸新田地先

幅広い帯状のナガエ・オオバナ群落は、県の大規模駆除とその後の継続管理により、目視の範囲では再繁茂は見当たらなかった。しかしながら、えぐるようにナガエ・オオバナを駆除したため、ヨシ・マコモの根元が直接水にさらされるようになった。



(3) 根戸新田地先

(4) 大堀川河口南岸

根戸新田地先と同様に、非かんがい期で水位が低い時期であるにもかかわらず、ヨシ帯の根元が水に浸っていた。

(5) 下沼南岸

ヨシ帯の前面に線上にできつつあったナガエ群落の岸沖方向の幅が少しずつ増えており、ナガエの下沼への侵入が少しずつ進んでいるように見受けられた。また、枯れたオオバナの赤茶色の茎も散見されており、オオバナの侵入も確認された。

(6) 下沼北岸（高野山新田地先）

高野山新田の植生帯はナガエ・オオバナが入り込み、植生帯からあふれるようにナガエ・オオバナが水路に広がっていた。今年度は、新しい植生帯が造成され、来年度以降、抽水植物の植栽が始まるが、よほどしっかり管理しないとナガエ・オオバナの植生帯となってしまうことが懸念される。



(6) 高野山新田植生帯(左・中央)
新設の植生帯(右)

(7) 湖北台団地～手賀沼フィッシングセンター

この水域にはヒメガマ帯が広がっていたが、ヒメガマはすっかり減少してしまった。最盛期よりもすでに減少した2020年11月と比較しても、さらに群落が衰退していた。栈橋付近にはオオバナ優勢のナガエ・オオバナ群落が広がりつつあった。



(7) 手賀沼フィッシングセンター地先のヒメガマ帯

6. 考察

- ・県が大規模駆除を行った水域では、目立った再繁茂は認められず、丁寧な駆除と継続駆除が適切に行われているためと考えられる。ただし、春になると発芽する可能性が高いため、引き続き監視と継続駆除が必要である。
- ・以前は厚いマコモ帯があった上沼北岸ではマコモ帯の衰退が激しく、ヨシが最前面に出ているところも多かった。最前面はナガエ・オオバナの徹底駆除のためにヨシ・マコモの根元がえぐられるようになり、ヨシ（マコモ）は株立ち状態になっていることもあった。水際線の根元は水に浸かっており、今後の更なる衰退が懸念される。
- ・ヒメガマは、フィッシングセンター地先の最大の群落が、大きく衰退していた。